

会員の声

原子力の理解・共感へむけて

はじめに

福島第一原子力発電所の事故以降、日本では、意図的に脱原子力を進めようとするプロ市民などの活動が活発化して、国全体においても原子力を全面否定するような空気に包まれています。彼らの主張は必ずしも合理的ではないのですが、われわれ一般人はプロ市民の印象的な刷り込み活動や、これを煽るマスコミに影響を受けやすい傾向があり、それが脱原発の空気の蔓延を許すことの一因になっているように思われます。そこで、なぜそのような傾向が生まれるのか考えてみました。

1. われわれには、概して以下の傾向がみられます。

1.1. 「難しい・面倒くさいことは、分からなくてもいい」と思っています。

これは、人生を効率よく生きるには、至って合理的な反応ではあります。いつも状況をみて判断したいと思っていますから、面倒な個別問題には関わりたくない、という心理が働くのです。

1.2. 「感情に左右される傾向があり、工学ではあたりまえといわれる以下の様な特性を持っているとは言えません。」

・工学的判断が出来る。

・未完成な物があるがままに認めつつ、営々と直して仕上げていく感覚を持つ。

1.3. 「何事も、手っ取り早く解決したい」という気力が強いのです。

結論だけを聞き、自分と同じか違うかだけに興味があります。例えば、新聞記者は自分の意見に合うかどうかだけを確認しているのであって、人の意見を聞く気は始めから無いのです。結局ひとつのことをあまり長々と考えません。

「戦争は二度と嫌だ」「原子力は恐ろしい」とまでは思いますが、それ以上には考えを進めないものです。

1.4. 感情を全てに優先させます。

理性・理詰め、などを内心「野暮」だと思っています。パスカルのパンセに「幾何学的精神」と「繊細な精神」という分類があります。日本人は決して前者ではないのです。人付き合いは感情だけで対応してもうまくいくことが多いので、感情の優先が正しいとほぼ確信しています。その為、この感覚を「合理性が大切な事柄」にもあてはめてしまうのは、いたしかたないことかもしれません。



2. 原子力発電の必要性を説く時に、私たち一般人の「不安」を解消するには、理科系的アプローチだけをされても有効ではありません。その辺にまず思い当たってほしいものです。

私たちの「不安」の要素を分析しますと・・・

2.1. 全体が（簡易に）見えないと、バラバラ感や、場当たり感を特に強く感じます。

とにかく、問題を手っ取り早く解決したいと考えているので、事実の一部しか把握できていないときでも判断をしようとする。（これを逆手に取られることも多いのですが）

2.2. 「間違った主張」があった場合は、その都度責任ある専門家がいていないに訂正してくれないと、困ります。

説明がないと、その結果どんどん間違った方向にいても、しかたがありません。日本人は有史以来、文化・文明は、明治以前には中国から、以後は西洋から輸入・導入して来ました。他人任せで責任を取らなくても良い世界に住んでいますので、間違ったことかどうかは状況次第であり、あまり追求するようなことをしないのです。

2.3. 「完全無欠とっていた原子力」が破たんした、と感じています。

工学関係者の方々に言わせると、本来、完全な技術等存在するはずが無く、原子力発電もその例に漏れないようですが、それを克服するために常に改善・改良にはげている、ということをやうまく説明してもらったことがあります。

例えば、

①原子炉内には、多くの放射性物質があること。

②事故ゼロは工学には絶対ないこと。

等をていねいにわかりやすく説明してほしいものです。

このことは、電力会社もメーカーもかつては言っていたようですが、いつしか（たぶん無用の心配をさせまい



として) 全く言わなくなり、「安全です」という呪文にすり変わったことが、結果として原子力発電の技術そのものを否定するようになってしまった原因かもしれません。また、危機管理について言えば、反対派に「それ見たことか、原発は危険なんだろう」と言われて返す言葉がない状況が今まで続いて来ました。この壁を乗り越えなかったことが福島の原因の一つと言えるかもしれません。



3. 現状打開のための一案

以上のような私たちの国民性を勘案すると、現状の打開には以下の様な対策・アプローチが有り得るのではないのでしょうか。

3.1. TVなどマスコミでの議論は、持ち時間が少なく、そのため「結論のぶつけ合いだけ」になりがちです。(根拠や前提もはっきりしない議論など、本来、無価値なのです。) そうなると、私たちにとっては「印象」だけでものを決めざるをえません。勢い「より厳しい意見」のほうに気持ちが向いていってしまいます。

所謂「テレビ討論」等が行われる時には、そういう構図が存在すること自体をわかりやすく説明しておいてほしいです。



3.2. 被曝・安全・地震・津波等の専門家は、もっとマスコミの主催する討論会などに積極的に参加し、議論を受けて立って欲しいものです。

専門家が、私たち一般人の誰も読みそうもない所に寄稿して「意見は言っている」というのは、およそ的外れです。こういった危急存亡のときにこそ、専門家は身体を張ってがんばらないといけません。「泣く子と地頭には勝てぬ」という態度は我々日本人には容易に変えられない伝統的心理に基づいていますが、専門家には是非ここで古い殻から抜け出してもらいたいのです。

3.3. プロ市民の手口を教えてください

活発に活動しているプロ市民は、マスコミなどにも重宝がられて頻繁に出演できるようなのです。この

人達は、ある問題点を示して論破されると、次の問題に移り、そこでも(不勉強なので)論破されると、また次に移り・・・とやっていって、例えば原子力発電については殊更「悪い印象だけ」を国民に植え付けようとします。(全ての議論で論破されているのは明らかなのですが、これがTVを見ているだけではなかなか見えてきません)。取り上げる問題が尽きると、「私は問題の提起だけしている」とうそぶいて逃げてしまいます。

この手口をあらかじめ教えておいてくれれば、私たちはもっと正確な判断ができると思います



3.4. 一般論の悪用への対応

3.3. と同じ様なプロ市民の活動様式なのですが、彼等は文句のつけようのない一般論をまず言います。そして実際は各論で好きなように主張を改変させてしまいます。人権・言論の自由・男女同権などの正論を展開して相手の口封じをしてから、本来狙っていたことを推し進めるようなのです。

こういったことを、事前に説明しておいてくれると、そういった欺瞞的な論客に騙されるのを回避できるかもしれません。

3.5. Single Issueの悪用への対応

プロ市民は「絶対に勝てる」小さなこと一件だけを梃子に大きく攻めるという手法も使うようです。例えば、放射線の影響について「放射線は癌の発生率を高めるので危険である」と、放射線の量などを全く無視して大騒ぎをするのです。この時、「そういう風に言う前提は何なのか、整理して説明してください」と求めるのは有効な手段だと思います。前提の妥当性の議論になれば、原発を無くす根拠が「危ないから」であるならば、「日本が確実に衰退に向かうのと、可能性が低いリスクに怯えるのとどちらがより深刻か？」と尋ねることができるでしょう。

更に、世界全体の状況を示してくれれば、プロ市民や一部マスコミの主張が大げさであることも自ずと判り、妥当な判断が誰にでもできると思います。(T.M記)